

講演会 & ライブ な日々 ④⑩

古川 秀明

『修学旅行』

中学の思い出

みなさん、中学の時の修学旅行の思い出って何がありますか？

私の思い出は、とにかく嬉しすぎて眠れなかったことです。

前日と旅行中の2日間の合計3日間、ほとんど寝ていません。

修学旅行は私の楽しみが、まるでおもちゃの缶詰みたいに詰まっていました。

行き先は、確か山口県に行った記憶があります。

「おいでませ～山口へ～」というキャッチコピーが大流行していました。

カルスト台地という、なんだか広い平原に白い岩だか石だかがボコボコとありました。

あと秋芳洞という洞窟にも行きました。

カラオケなどはなかったので、歌のしおりみたいなのを作って、それをバスの中で歌っていました。

内容は忘れましたが、バスガイドさんが面白い話をしてくれました。

お土産もたくさん買いました。

母にブローチを買ってあげたら、想像以上に喜んでくれたのを覚えています。

このように私の中学の時の修学旅行は「楽しい、嬉しい、眠れない」の3拍子揃ったおもちゃの缶詰でした。

なので、私の頭の中では「修学旅行」＝「楽しい」という図式が成立します。

ところが、スクールカウンセリングをしていると修学旅行に行きたくない中学生にたくさん会います。

特に不登校の生徒さんは修学旅行に行くのをためらいます。

（逆に学校には行かないけれど、修学旅行や校外学習などの行事には喜んで参加する生徒さんもいます）

しかし、教師はなんとかクラス全員で修学旅行に行きたいと思います。

親御さんも、中学の修学旅行は一生に一度しかないから是非行って欲しいと願います。

そんな教師や親御さんの多くは、修学旅行は楽しかった！という思い出をお持ちです。

だからきっとあなたも修学旅行に行けば楽しいはずよ！という仮説を立て、そ

れを押し付けます。

本当は行きたくない子どもは、教師や親に何度も説得され、自分のためではなく、教師や親を喜ばせる為に泣く泣く参加します。

時は流れ・・・

中学の時に、修学旅行に嫌々行かされ、良い思い出を持っていない子ども達が今、中学生の子を持つ親になっています。

その親の子ども達も、なぜか修学旅行に行きたくないと言ったりします。

そうすると親の決断は早く、早期に修学旅行の不参加を表明します。

自分がされて嫌だったことを、子どもにさせたくないという思いからだと思います。

それはそれで子どもの心を守る愛情だと思います。

しかしながら、行く前は嫌だったけれど、行ったら楽しかったという生徒さんがいることも事実です。

嫌がる子供を無理にでも行かせた方がいいのか、それともその子の気持ちを優先して行かせない方がいいのか。

先生も親御さんも難しい選択を迫られます・・・。

(続く)

シンガーソングライター
ふるかわひであき